

福井県医師会

だより

第610号 平成24年(2012)4月



一乗谷朝倉氏遺跡の春

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：一乗谷朝倉氏遺跡の春

鯖江市 清水 元博

唐門は、朝倉氏5代当主義景公の菩提を弔うために建てられた松運院の山門で、江戸時代中期に建てられたものと推定されており、春には樹齢300年と推定される薄墨桜が趣きを添えます。特に、夜明け前に青く染まった唐門と薄墨桜などのたたずまいが大変印象的です。

醫 縫 録

産婦人科の診療、今あれこれ

福井県産婦人科医師連合会長 山 本 宝



昨年7月より県産婦人科医師連合の会長を務めています山本宝です。この欄をお借りして、診療等、諸事情をかい摘んでお話させていただきます。

産婦人科では今や、一般産婦人科診療のほかに、周産期産科、生殖医療、婦人科腫瘍、女性医療の4つのサブスペシャリティに分かれています。

我々専門医は日常診療を行う上で、どのフィールドも概ね知っておくことが大切であり、その拠所に2つの学会に入会することが必要です。研究や臨床教育をリードする日本産科婦人科学会(産婦人科専門医認定組織)と、医療経営や生涯研修に重きをおく日本産婦人科医会(母体保護法指定医組織)であり、両組織は車の両輪のように補完し合っています。昨年、この2つの学会が相次いで公益法人に移行したため、福井県は全国に先駆け両支部組織を統合した県産婦人科医師連合を発足させました。より発信力をもつ組織として活動してゆきたいと考えています。

さて、県内でも出産数が年々1~2%減少し、高齢出産の増加による妊娠・分娩へのリスクが大きくなっています。ただ、県内では総合周産期母子医療センター(県立、大学)と、それを補完する5つの地域周産期母子医療センター、そして診療所の先生方が密接に周産期医療情報を共有しています。先生方のご努力のお陰で、最新の全国都道府県の周産期死亡率は福井県が全国一低いと報道されました。より力を合わせ向上出来る様、自治体からの一層の助成をお願いしたいと思います。他方、女性の結婚年齢の上昇に伴う生殖医療への比重も増えています。保険診療内では限界があり、ステップアップした治療を求める患者側の経済的な負担軽減を、重ねて行政側に考えていただきたいと思います。

ています。

ところで、子宮頸がんはハイリスク型ヒトパピローマウイルス(HPV16、18型など)の局所持続感染が原因であり、その感染予防ワクチンが一昨年から中高生に公費負担で接種されています。同時に、性交経験者では頸がん細胞診が必要であり、結果次第ではHPVテストや精査が要求されます。しかし、福井県の頸がん検診受診率は23.1%と低く、特にHPV16、18型感染が多い20~30代前半の若い女性では10%台と極めて低いことが問題になっています。産婦人科への受診に赴くよう、先生方のご協力をお願いするしだいです。

一方、県内でもクラミジア、淋菌など性感染症の患者数が増えています。女性では自覚症状が乏しく、すすんで受診することが大切です。ちなみに、本年7月末には県連合の担当で、第35回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会が開かれます。性暴力被害や望まない妊娠への対応も喫緊の課題であり、県内外の多くの専門家と意見交換し、県民の健康福祉に寄与したいと考えています。

最後に、食生活の欧米化や少産化に伴い、子宮体がんや卵巣がんが徐々に増えています。また、更年期を境に急激な性ホルモン低下による“こころやからだ”の不調、そして老年女性の増加に伴い性器感染症、尿失禁、性器脱、骨粗しょう症といった高年疾患への対応も求められています。産婦人科も今やあれこれ、女性の生涯にわたる健康全般を積極的に担ってゆかなければなりません。